

# 瀬戸焼

## 沿革

瀬戸焼の始まりについては諸説あるが、その源流を辿ると、当時、古窯で最大の規模を誇った猿投窯(現在の猿投)に行き着くともいわれている。

特に瀬戸焼と呼べるのは、鎌倉時代のはじめ頃から生産された「古瀬戸」の段階からである。「古瀬戸」とは、中世の一般的な焼き物が無釉であったのに対し、器全体に釉薬を施した特殊な陶器のことを指し、室町時代中期まで約300年にわたって生産された。江戸時代には、尾張藩主徳川義直が東濃地方に離散していた瀬戸の陶工を呼び戻し、この産業を保護したため、生産が盛んになった。それまでは陶器のみの製造であったが、江戸後期になると、磁器の生産もはじまった。そして、江戸末期から明治にかけては、輸出がはじまり、明治政府の輸出振興策の下、国内市場より海外市場を優先した製品作りがなされ、明治10年代には輸出用陶磁器が総生産額の約7割を占めるまでになる。また、この時期は「石炭窯」が開発されて大量生産化が進む一方、新たな製品の開発も積極的に行われ、《陶器と磁器の違い》

種別	陶器	磁器
原料	粘土	陶石を粉碎したもの
焼成温度	1100～1200度	1300度前後
素地	焼きが柔らかく、質が柔らかく、多孔質である。	焼きが硬く、質が緻密で気孔が少ない。
われ口	破片は不透明で土状である。	貝殻状に割れ、破片はガラス状である。
吸水性	釉薬されたもの以外多孔質のため水が浸透する。	ほとんど水を通さない。
透光性	光は通さない。	ガラス質のため光を通す。
色合い	素色は多くが淡い色である。	素地は純白色である。
釉薬	やや低い溶融点の釉薬を施し、硬度が低い。	高温で溶融の釉薬を施し、硬度が高い。
打音	やや低い濁音を発する。	金属性の高い音を発する。



写真提供:愛知県陶磁器工業協同組合

タイル、便器、碍子、ノベルティなども生産されるようになる。

「せともの」は焼き物の代名詞にもなっているほど、瀬戸の陶磁器の知名度は高く、「瀬戸染付焼」と「赤津焼」(瀬戸市赤津地区)が伝統的工芸品に指定されている。

### 瀬戸染付焼

染付焼は江戸時代にはじまり、当初は「陶器」であったが、200年前頃に現在の瀬戸染付焼の技術が完成し、「磁器」の染付焼が作られるようになった。

### 赤津焼

江戸時代後期に現在の赤津焼の技術が確立した。赤津焼は基本的に素焼きをせず、釉薬を施した「陶器」である。赤津焼の最大の特長は、釉薬の種類が多く、灰釉、鉄釉、古瀬戸釉、黄瀬戸釉、志野釉、織部釉、御深井釉、の7種類の釉薬が使われる。



## 製品知識

瀬戸地区には、もともと陶磁器の原料が豊富に埋蔵されており、その陶土は火に強く、焼き上がりが真っ白になる良質なものであり、それが多様な陶磁器製品の生産を可能にしている。

主な生産品目は次の通り。

**和飲食器**：日本の風土や行事、料理などに合わせて、様々な種類の図柄や形のものがある。

**洋飲食器**：ディナーセットやティーセットがその代表。

**ノベルティ**：陶磁器製の置物などの装飾品で干支の置物や人形など。

**電磁器**：鉄塔や電柱などに取り付ける絶縁体など。

**タイル**：内装用・外装用のタイル。室内外、浴室やトイレなどに取り入れられている。

**ファインセラミックス**：高度に精選された原料から高い精度で加工されたセラミック（焼き物）部品。エレクトロニクス産業のほか、様々な分野で利用されている。

## 陶磁器業界と瀬戸地域

瀬戸地域の代表的な産業は陶磁器産業であるが、近年、中国などからの輸入の増加や国内産地間での激しい競争もあり、陶磁器製品の生産・販売は停滞気味となっている。

こうしたなか、瀬戸市では、産地の情報発信の拠点として、アンテナショップの機能をも果たす「瀬戸蔵セラミックプラザ」を市の中心部に構え、焼き物のPRを積極的に進めている。

また、毎年9月には「せともの祭」を開催し、多くの



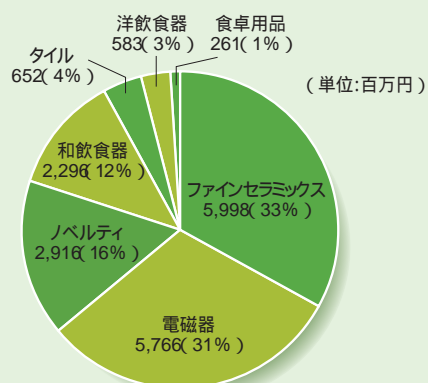
来場者を集めているが、この催しは瀬戸焼のあらゆるニーズに応えるべく産地振興にも一役買っている。

さらに、リサイクルや環境保護の意識の高まりに対応すべく、エコ商品の開発も盛んに行われるようになってきている。

### 「Re瀬戸」の陶磁器とは

瀬戸地区において、資源循環型社会・エコシステムの考えに基づき、不用になった廃陶磁器を50%以内で原料に使用し、1,150度～1,300度の温度で焼きあげた陶磁器のことです。市民・行政・業界の3者が協力して作り上げたもので、このプロジェクトを積極的に展開しています。

品種別販売状況(平成18年)



資料:瀬戸市、尾張旭市地区陶磁器製品の統計

### 業界のデータ(県内)

主要な産地	瀬戸市
産業の起源	平安時代中期頃
年間出荷額	184億円
業者数	435業者

取材協力:愛知県陶磁器工業協同組合  
愛知県陶磁資料館  
合資会社平八園